



## チェチェンの子どもたち日本委員会(準備会)

Japanese Committee for the Children of Chechnya

共同代表: 林克明(ジャーナリスト)・岡田一男(映像作家)

〒112-0001 東京都文京区白山 2-31-2-101 03-3811-4577 #2-101, 31 Hakusan-2, Bunkyo-ku, Tokyo-112, Japan  
<http://chechenchildren.jp.org/> [info@chechenchildren.jp.org/](mailto:info@chechenchildren.jp.org/)

### 戦争で傷ついたチェチェンの子どもたちの体や顔、心の傷を

### 少しでも改善するため、低出力半導体レーザー治療器を贈ろう

今も山岳部での小規模戦闘が断続的に発生するチェチェン戦争は、実に悲惨なものでした。100万人に満たないチェチェン人のおよそ1/4、25万人が命を失い、その圧倒的多数は、武器を持たない一般市民でした。そして、その中には4万人もの子どもが含まれていました。そして一命はとりとめたものの、手足を失ったり、体に大きな傷跡を遺した人びとも数万に及びます。また、戦争の結果、チェチェンの環境が破壊され、新たに産まれてくる赤ちゃんたちの間では、口唇口蓋裂のような先天的な欠陥を持つものが少なくありません。未だその詳しい理由は突き止められていません。

このようなチェチェン国内での医療状況の改善を支援しようと、ハッサン・バイエフ医師は、口唇口蓋裂児童の手術に尽力しています。今年春の2ヶ月の来日時には、日本の先進的な形成外科医療を学ぶと共に、レーザー治療のトレーニングを受け、日本で開発された、低出力半導体レーザー治療器が、疼痛緩解といった使い道だけでなく、使い方によっては、手術痕の除去、ケロイドの治療など、まさにチェチェンで多くの人びとの苦しみに光明をもたらす応用ができると知りました。バイエフ医師は、11月中旬に第29回日本レーザー医学会総会のランチョン・セミナー講演者として招かれておりますが、その際にも数日間の医療関係者との交流、チェチェンの子どもたちが今置かれている状況に関心を寄せてくださる市民のみなさまとの交流を強く望み、来日を機会にまたレーザー治療器の入手を希望しています。

今回の、米国＝日本間の往復旅費は、学会でご負担いただけますが、交流に要する経費や、残りの日々の滞在費は、前回、前々回と同様、私たちが、みなさまの拠金を集めてと言う形になります。よろしく願いいたします。

招聘期間: 2008年11月10日-19日

本人滞在費 20,000X7 = 140,000 随員滞在費 20,000X3 = 60,000

旅費・交通費 100,000 通訳費+随員報酬 100,000 小計 400,000円

レーザー医療器購入費など 800,000円 **以上 拠金目標 1,200,000円**

(新品価格は4,000,000円しますので、程度の良い中古品を捜します。また、バイエフ医師の側でもチェチェン・ロシアでのスポンサーを捜します。)

拠金にはチェチェン連絡会議の口座を拝借しています。

郵便振替加入者名: チェチェン連絡会議 口座番号: 00180-6-261048

通信欄に「バイエフ」とご明記ください)